

研究・調査報告書

報告書番号	担当
60	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Southern Europe as an example of interaction between various environmental factors: a systematic review of the epidemiologic evidence. 南ヨーロッパにおける、様々な環境要因間での交互作用の一例：疫学的証拠の系統的レビュー	
執筆者	
Donato F, Gellatti U, Limina RM, Fattovich G.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Oncogene. 2006 Jun 26;25(27):3756-70.	
キーワード	
B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、アルコール	
要旨	
<p>目的： B型肝炎ウイルス (HBV)、C型肝炎ウイルス (HCV)、アルコール摂取は世界共通に肝細胞癌 (HCC) の主要な原因である。南ヨーロッパは上記3つの HCC 主要危険因子に関し、中等度から高度の罹患率を持ち、喫煙、糖尿病、肥満に関しても同じくらいの罹患率をもっていると推定されている。こういった背景をもつ南ヨーロッパにおいて、HCC の病因論に関する疫学研究について、系統的なレビューを行うことを目的とした。</p> <p>方法： Medline にて論文のタイトルと要約を調べ、対象となる研究をピックアップし、それらの文献の中から、更に参考文献もあたって論文を集めた。</p> <p>結果： 顕性感染であれ不顕性感染であれ、HCV 感染と HBV 感染の間には相乗作用があることがいくつかの研究の結果から示唆されていた。飲酒による HCC のリスクは、多くの研究で、一日飲酒量がエタノール換算 40-60g 以上の場合に上昇するとされていたが、本研究では閾値なしの量—反応曲線様に上昇することが示された。いくつかの研究により、飲酒と HCC の関連において HCV が”probable”、HBV が”possible”に交互作用を持つ可能性が支持されていた。また、いくつかのデータでは、コーヒーは、様々な要因で発症する HCC のリスクに対し、保護的な作用をもつと報告されている。またいくつかの研究で、喫煙、糖尿病、肥満が、単独に、もしくは他の危険因子と共に HCC を引き起こすと報告されていた。</p> <p>結論： ことに地中海地方のような、比較的飲酒量の多い、また HCV や HBV 感染率が中等度ある地域においては、全 HCC 件数の約 85%を、飲酒、HCV 感染、HBV 感染の 3 大危険因子で説明することができる。ヘモクロマトーシスなどその他の既知の危険因子や、未知の HCC の独立した危険因子に残されている余地はほとんどない。</p>	